

# 第2部

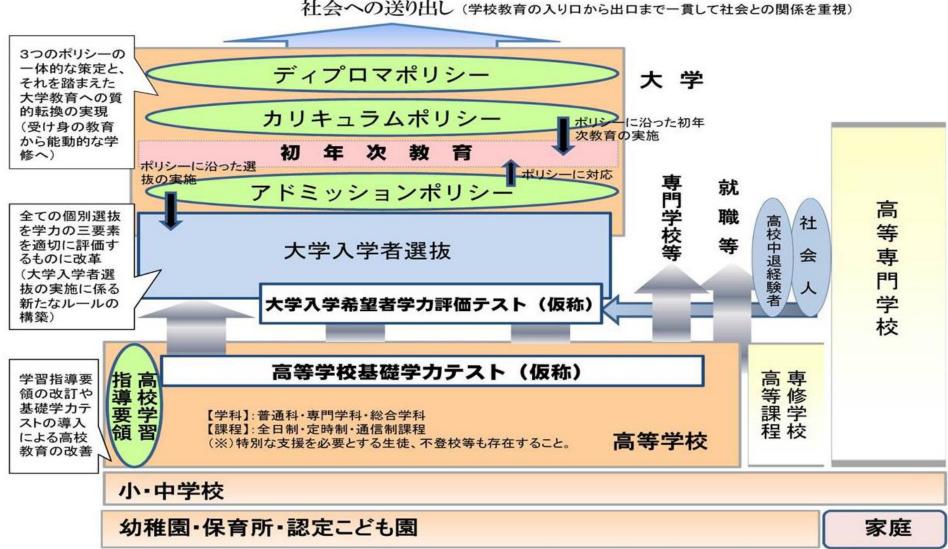
# 新入試制度改革を控えて

### 初等中等教育から大学教育までの一貫した接続イメージ



初等中等教育から大学教育までの一貫した接続イメージ

社会への送り出し(学校教育の入り口から出口まで一貫して社会との関係を重視)



※2015年8月27日 高大接続システム改革会議(第8回) 配布資料より

### 高校から大学までの接続イメージ



### 大 学

ディプロマポリシー (卒業) カリキュラムポリシー (講義) アドミッションポリシー(入学)

# 大学入学者選抜

個別試験(面接、小論文等含む)

大学入学希望者学力評価テスト

### 高校

# 高大接続改革の全体イメージ①



別添資料1

高大接続システム改革の全体イメージ~主体性を持って、多様な人々と学び、働くことのできる力を育む~

O

要

素

を

0

ょ

う

方

法

### 高等学校教育

### 教育内容の見直し

⇒次期高等学校学習指導要領の改訂 など

【H26.11~中教審教育課程企画特別部会で審議中】

- ・教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価 の在り方を一体として捉えた<u>学習指導要領等</u> の基本的な考え方を明確化
- ·育成すべき資質·能力を踏まえた, <u>教科·科目</u> 等の見直し

### <u>学習・指導方法の改善と教員の指</u> 導力向上

⇒**教員の養成・採用・研修の見直しなど**[H26.7~中教審教員養成部会で審議中]

·学習·指導方法の改善に対応するための<u>教員</u> の指導力の向上

### 多面的な評価の推進

### ⇒学習評価の改善

【詳細はH27秋頃から高大接続システム改革会議評価検討ワーキング・グループで検討予定】

・学習評価の在り方の見直しや指導要録の改善により、生徒の多様な学習活動・成果が反映されるよう改善(さらに、調査書等に適切に反映)

### ⇒多様な学習成果を測定するツールの 充実

- ・生徒の基礎学力の確実な育成のための<u>高等</u> 学校基礎学力テスト(仮称)の導入
- ・<u>農, 工, 商業などの検定試験</u>や英語などの<u>民</u> 間検定の利活用の促進

### 大学入学者選抜

### 個別選抜の改革

ポリシーに沿った選抜

各大学において, アドミッ ション・ポリシーに基づき, 例えば, 下記の方法から

- ・活用する評価方法・比重 ・要求するレベル
- 等を決定・公表

ア 大学入学希望者学力評価 テスト(仮称)の結果

- イ 自分の考えに基づき論を立 てて記述させる評価方法
- ウ 高校時代の学習・活動歴
  - 調查書
  - ・活動報告書(個人の多様な活動, ホランティア・部活動・各種団体活動等)
  - ・各種大会や顕彰等の記録
  - ・資格・検定試験の結果
  - 推薦書等
- エ エッセイ, 大学入学希望理由書, 学修計画書
- オ 面接, ディベート, 集団討論, プレゼンテーション

大学入学希望者学力評価 テスト(仮称)の導入

- ◆調査書の改善
- ◆個別選抜の改革の支援

(面接等の手法や評価方法の開発, アト・ミッション・オフィスの整備・強化)

大 学 教 育

各大学の教育理念に基づく三つのポリシーの一体的な策定 を法令上位置付け、ガイドラインを策定

アドミッション・ポリシー

以下の三要素について各大学で具体的にどのような能力をどのいいで求めるのかを明確化

①知識・技能

②思考力·判断力·表

※①を基盤にして答が一つ に定まらない問題に自 ら解を見出していく思考 カ・判断カ・表現カ等の 能力

③主体性を持って多様な人々と協働して 学ぶ態度 <u>カリキュラム・ポリシー</u>

各大学において, それぞれのディプ ロマ・ポリシーを踏 まえ, どのようなカ リキュラムを編成し, 教育を行うかの方 針を明確化

○カリキュラムの体系化・多様な背景を持つ学生

- 多様な背景を持つ学生 を大学教育に円滑に移 行させるための「初年次 教育」の充実
- 明確な方針に基づく教養教育と専門教育の充実学生の関係・学修支援の
- 学生の履修・学修支援の 充実など

ディプロマ・ポリシー

各大学において、 どのような能力を 身に付ければ学位 を授与するのかと いう方針を明確化

○卒業に必要な要件の 明確化と厳格な卒業 認定

〇卒業後を見据えた社会との連携強化

- ◆学修成果の把握・評価(アセスメント・テスト, 学修行動調査, ルーブリック等)
- ◆教職員の資質・能力の向上(FD·SDの充実, 教員の教育業績評価の充実)
- ◆高度専門職(アトミッション・オフィサー, カリキュラム・コーディネータ, IRer等)の育成・制度化
- ◆大学における教育条件整備(TAの充実、ラーニング・コモンズの整備)
- ◆高大接続システム改革の目的と内容を実現する新しい認証評価制度の具体 化と適切な評価

【詳細は中教審大学分科会大学教育部会で検討予定】

### ※2016年3月31日 高大接続システム改革会議「最終報告」より

# 5 高大接続改革の全体イメージ②



評価テストの結果 知識•技能 2 |個別試験(記述・論述式) 思考力・判断力・表現力 調查書 感動報告書 各種大会・顕彰等の記録 資格・検定試験の結果 推薦書 など エッセイ 主体性を持って多様な人々と 工 大学入学希望理由書 協働して学ぶ態度 学修計画書 面接 ディベート 才 集団討論 プレゼンテーション

※2016年3月31日 高大接続システム改革会議「最終報告」より

# 高大接続改革の全体イメージ③



### ■現在

①+② 国公立大学〈前期〉など

①+③ 国公立大学〈後期〉、国公立大〈AO·推薦〉

①+②+③ 医学部医学科、看護系学科など

①のみ 私立大センター利用入試など

③のみ 私立大〈AO・推薦〉など

### ■改革後

- ①+②+③を基本(①、②、③のウェイトは、各大学が 学部ごと、募集区分ごとに決定する)
- 何らかの形で、学力の担保をとる(アドミッションポリシーの明確化)

### 「基礎テスト」の大学入試への利用について



- 2019年度から2022年度(現行課程)
  - □ 試行実施期として、大学入学者選抜や就職には用いず、本来の目的である学習改善に用いながら、その定着を図る
  - □ 高校実施が基本(会場実施もあり)、参加については希望校 (希望者)
  - □ CBT(インハウス方式)・IRT(項目反応理論)の導入を検討
  - □ 出題・・・コミュニケーション英語 | 、数学 | 、国語総合
- 2023年度以降(新課程)
  - □ 大学入学者選抜において活用する場合には、生徒等が自 らの成果を示すものとして自発的に提出することを念頭に、 取扱い上のルールを明確にする
  - □ 就職時の活用において本テストの結果だけをもって予備 選抜の材料として用いられるなど生徒等の可能性が狭めら れることのないよう配慮する

### 「評価テスト」導入について①



- 導入の背景
  - 新しい大学入学者選抜に資する方策の一環
  - 個別大学における入学者選抜
- 学力の3要素
  - 「知識·技能」
  - ●「思考力・判断力・表現力」
  - 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」
- □ 学力の3要素について、多面的・総合的な評価が必要 ⇒「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の積極的 な活用が重要

### 「評価テスト」導入について②



- 基本的な考え方
  - ○目的·対象者
    - 対象・・・大学入学希望者(国公立大必須、私立大任意)
    - ◆大学教育を受けるために必要な能力について把握
    - 知識・技能を十分有しているかの評価
    - ●特に、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価
    - 自ら問題を発見し、答えが一つに定まらない問題に解を見いだしていくために必要な諸能力を重視
- 口 大学入学に向けた学びを、知識や解法パターンの単なる暗記適 用などの受動的なもの
  - ⇒学んだ知識や技能を統合しながら問題の発見・解決に取組む、 より能動的なものへと改革する。
  - ◆大学教育では、こうした学びを一層発展させる。

### 「評価テスト」導入について③



- 具体的な制度設計の考え方
  - 中央教育審議会における審議を踏まえて・・・
  - (1)高校3年生が次期学習指導要領の下で学ぶことが 想定される2024年度(平成36年度)及びそれ以降
  - (2)「高大接続改革実行プラン」で「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入が示されている2020年度(平成32年度)以降2023年度(平成35年度)までの現行学習指導要領の実施期間
  - (1)(2)について、それぞれの期間の課題をもとに具体 化に取り組む

### 「評価テスト」導入について4



### ①次期学習指導要領下における基本的枠組み(2024年度~)

次期学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、特に思考力・判断力・表現力を構成する諸能力をより適切に評価できるものとする

- 地歴・公民については、次期学習指導要領における科目設定等を踏まえ、知識・技能に関する判定機能に加え、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力の判定機能を強化
- 導入が検討されている「数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を 行う新たな選択科目」(「数理探究(仮称)」)に対応する科目を出題
- 数学、理科については、知識・技能に関する判定機能に加え、思考力・判断力・表現力を構成 する諸能力に関する判定機能を強化
- ■語については、次期学習指導要領における科目設定等を踏まえ、知識・技能に関する判定機能に加え、例えば、言語を手掛かりとしながら、限られた情報のもとで物事を道筋立てて考え、的確に判断し、相手を想定して表現するなど、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力に関する判定機能を強化
- 英語については、「書くこと」や「話すこと」を含む四技能について、例えば、情報を的確に理解し、語彙や文法の遣い方を適切に判断し活用しながら、自分の意見や考えを相手に適切に伝えるための、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力を評価し、民間との連携の在り方を検討
- 次期学習指導要領における教科「情報」に関する中央教育審議会の検討と連動しながら、適切な出題科目を設定

### 「評価テスト」導入について⑤



②現行学習指導要領下における基本的枠組み(2020~2023年度)

現在、行われている次期学習指導要領の改訂に係る議論の方向性を勘案しつつ、大学教育を受けるために必要な諸能力をより適切に評価できるものとする

- □各教科・科目の出題内容については、以下の方向とする
  - 地理歴史、公民については、知識・技能に関する判定機能に加え、例えば、歴史系科目においては、歴史的思考力等に関する判定機能を強化。単なる暗記などによる個別具体的な知識の量や細かな知識の有無により判定することがないよう出題の仕方を工夫
  - 数学、理科については、知識・技能に関する判定機能に加え、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力に関する判定機能を強化
  - 国語については、知識・技能に関する判定機能に加え、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力に関する判定機能を強化
  - 英語については、「書くこと」や「話すこと」を含む四技能を重視して評価
- □試験の科目数については、できるだけ簡素化する
  - 地歴A科目、数学 | 、数学 | などの2単位科目の廃止か?

### 「評価テスト」導入について⑥



- ■出題·解答·成績提供方式
- ①マークシート式問題の思考力・判断力を一層重視した作問
  - □ 問題に取り組むプロセスにも解答者の判断を要する部分が含まれるよう工夫
  - □ 複数のテキストや資料を提示し、必要な情報を組み合わせ思考・判断させる
  - □ 分野の異なる複数の文章の深い内容を比較検討させる
  - □ 学んだ内容を日常生活と結びつけて考えさせる
  - □ 他の教科・科目や社会との関わりを意識した内容を取り入れる
  - ロ 正解が一つに限られない問題とする
  - □ 選択式でありながら複数の段階にわたる判断を要する問題とする
  - □ 正解を選択肢の中から選ばせるのではなく必要な数値や記号等をマークさせる
  - □ 結果の表示については、従来の合計点方式のみでは得られない、よりきめ細かい評価情報により、個別大学の入学者選抜における多面的・総合的な評価を促進するため、多様な情報(例えば、素点だけでなく、各科目の領域ごと、問いごとの解答状況も合わせて提供するなど)を各大学に提供
  - □ (検討)主として知識・技能を中心に評価する問題と、主として思考力・判断力を中心に評価する問題とに分けて設定し、各大学で得点比重を判断できるようにする

# 連動型複数選択問題とは?



### 連動型 複数選択問題

「状況」「問題」「解決」など、お互いに連動する複数の選択 肢群からそれぞれ選択肢を選び、その組み合わせで回答する。

選択肢群	選択肢	組み合わせによる回答(複数正答あり)
【状況/Context】	(CO) 実世界でこれまでの理論では説明できない事象が発見された。 (C1) 解決すべきだと感じる社会問題に直面した。 (C2) いつもと異なる研究環境に身を置き、刺激を受けた。 (C3) コンピュータを使える環境にいるので、使ってみたいと思った。 (C4) 研究の新しいアイデアを思いついた。 (C5) これまでとは異なる視点の研究を考えている。 (C6) これから取り組む研究テーマを考えている。 (C7) シミュレーションで生成された現象を理解しようとしている。 (C8) 結果がわからない複雑な設定の振る舞いを理解したい。 (C9) 極端な設定の場合の振る舞いについてはわかっている。	【状況】(C6)-【問題】(P1)-【解決】(S2)  (C6) これから取り組む研究テーマを考えている。 (P1) すでに他の人が行ってきたアプローチでは新しいことは生まれにくい。 (S2) これまでとは異なる視点で研究に取り組む。
【問題/Problem】	<ul> <li>(P0) 一人で考えているだけでは、よりよいものにはならない。</li> <li>(P1) すでに他の人が行ってきたアプローチでは新しいことは生まれにくい。</li> <li>(P2) 設定が複雑であると、そこで何が起きているのかが理解できない。</li> <li>(P3) これまで行われてきた方法が正しいとは限らない。</li> <li>(P4) 研究対象そのもののなかで新しい視点を見出すことは難しい。</li> <li>(P5) シミュレーションでの実験は楽しむことができる。</li> <li>(P6) 単に実行するだけでは、何が起きているのかわからない。</li> <li>(P7) 複雑な現象を解析的に理解するのは難しい。</li> <li>(P8) 結果を可視化しただけでは、理解したことにならない。</li> <li>(P9) それらは解析しやすいが、現象の本質とはいえない。</li> </ul>	【状況】(C8)-【問題】(P7)-【解決】(S8) (S8) 結果がわからない複雑な設定の振る舞いを理解したい。 (R7) 複雑な現象を解析的に理解するのは難しい。 (P8) シミュレーションを実行して振る舞いを観察する。
【解決/Solution】	(SO) 他の概念との関係を考えてみる。 (S1) なるべく扱いやすく理解可能な設定で実験を始める。 (S2) これまでとは異なる視点で研究に取り組む。 (S3) 研究仲間一緒に議論しながら、研究を進める。 (S4) 素朴な疑問を大切にし、そこから研究へとつなげる。 (S5) 2つの極端な設定の間の中間領域を研究する。 (S6) 結果をグラフで可視化し、振る舞いを理解する。 (S7) これまで当たり前とされてきた前提を疑う。 (S8) シミュレーションを実行して振る舞いを観察する。 (S9) なぜそのような振る舞いになったのかを考える。	【状況】(C7)- 【問題】(P6)- 【解決】(S6)  (S7) シミュレーションで生成された現象を理解しようとしている。 (R6) 単に実行するだけでは、何が起きているのかわからない。 (P6) 結果をグラフで可視化し、振る舞いを理解する。  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

※2015年6月18日 第3回高大接続システム改革会議 配布資料より

### 「評価テスト」導入について⑦



- ■出題·解答·成績提供方式
- ②記述式問題の導入

### (作問と結果表示)

- □国立大学の2次試験で行われているような解答の自由度の高い記述式ではなく、設問で一定の条件を設定し、それを踏まえて結論や結論に至るプロセス等を解答させる「条件付記述式」を中心に作問を行うことにより、問うべき能力の評価と採点等テスト実施に当たっての課題の解決の両立を目指す。
- □ 対象教科については、当面、高等学校で共通必履修科目が設定されている「国語」「数学」とし、特に記述式導入の意義が大きいと考えられる「国語」を優先。2020年度から2023年度までの現行学習指導要領の下では短文記述式の問題を導入、2024年度以降の次期学習指導要領の下ではより文字数の多い記述式の問題を導入

### 16 条件付き記述式とは?



(2016年度全国学力・学習状況調査〈中学国語B〉から)

- 【問】雑誌の記事を読んで、宇宙エレベータについてあなたが疑問に 思ったことを、「なぜ」、「どのような(に)」、「どのくらい」という言 葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で一つ書きな さい。
- 【正答例】宇宙エレベータの実現には、どのような課題があるのか。
- 【誤答例①】宇宙エレベータのケーブルは、地上のどこに向かって 伸ばしていくのか。
- 【誤答例②】宇宙エレベータに乗るための費用は幾らなのか。
  - ○宇宙エレベータに乗るための費用はどのくらいなのか。
- ×複数の情報を統合し、構造化して、新しい考え方をまとめるための 思考力・判断力やその過程や結果を表現する力
- ○表面的な条件に関する指示に従う力

# 「評価テスト」導入について⑧



### ■まとめ(1)

- ◆ 現行課程(2020~2023年度)と新課程(2024年度以降)に分けて検討中
- ◆ 多様な情報(例えば、素点だけでなく、各科目の領域ごと、問いごとの解答状況も合わせて提供するなど)を各大学に提供
- ◆ 英語四技能に対応した外部検定試験の導入
- ◆ 現行課程では短文記述式、新課程ではより文字数の多い記述式(CBT導入との絡み)を導入、記述式は段階評価
- ◆ 現行課程は「紙」ベース、CBTは新課程から
- ◆ 実施回数もCBT導入までは1回
- ◆ 難易度はアップ、出題科目は精査
- ◆「数理探究」+[情報」に関する科目の間で出題される

# 「評価テスト」導入について⑨



- ■まとめ(2) 当初の提案から無くなってしまったこと
  - 基礎テスト
    - ◆ 学力不問入試をなくすために、入試で利用
    - ◆ 学力レベル別に2レベルの共通テスト

### ■ 評価テスト

- ◆「合教科・合科目型」「総合型」の問題を組み合わせて 出題
- ◆ 資格試験的利用の促進する観点から、年複数回実施
- ◆「1点刻み」の評価から脱するために、段階別評価による成績の提供
- ◆ 出題科目のスリム化(記述式、英語四技能の導入でむしろ複雑化)

### ■入試日程の変化

- ◆評価テストの実施時期と回数
- ◆国公立大個別試験の実施時期と回数
- ◆(上記の2点が確定後)私立大入試日程の変化

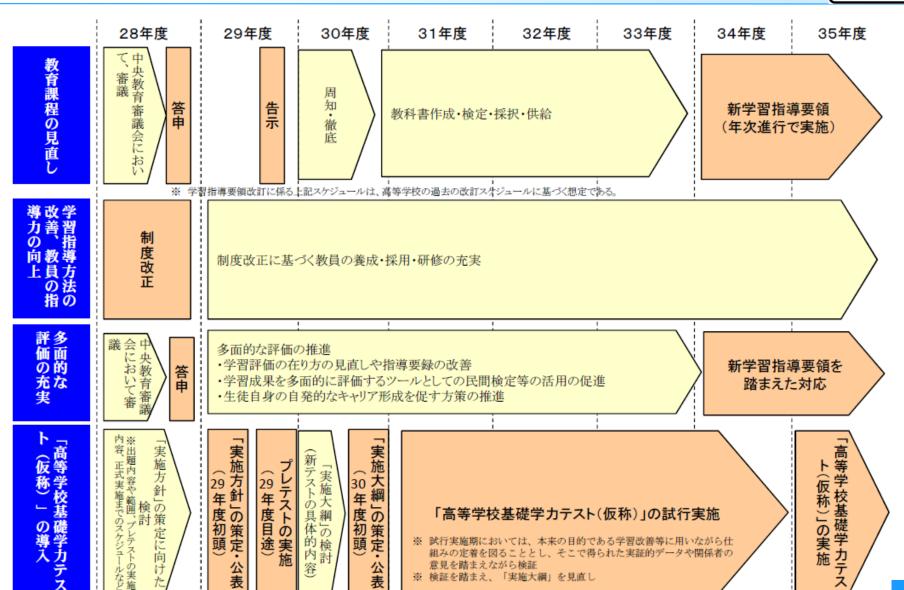
### ■国公立大出願時の「自己採点制度」の有無

- ◆解答や配点の公表の有無および公表時期
- ◆受験生への問題冊子の持帰りを認めるか?
- ◆段階評価の返却日と2次出願期間

残念ながら、文科省(審議会)でも議論されていないし、 マスコミもとりあげることはない(無関心)。

# 高大接続システム改革のスケジュール 1.高等学校教育改革





高大接続システム改革のスケジュール **SUNDAI** 32年度 平成27年度 28年度 29年度 30年度 31年度 組(3月末までに要完了) 各大学において、三つの方針の策定、見直し等の取 つの方針の策定・公表に関するガイドラインの策定 学校教育法施行規則、大学設置基準等の改正、三 三つの方針に基づく大学教育の実現 4月 ★各大学における各方針を踏まえた卒業認定、 改正省令施行 カリキュラム改革、入学者選抜の改革、SD、FD等の 取組 可能なものから速やかに実施

認証評価の細目を定める省令の改正(三つの方針に関する評の改正(三つの方針に関する評のでは、)

基準等への改訂、各大学への周知評価機関において、新たな評価

各大学において、自己点検・

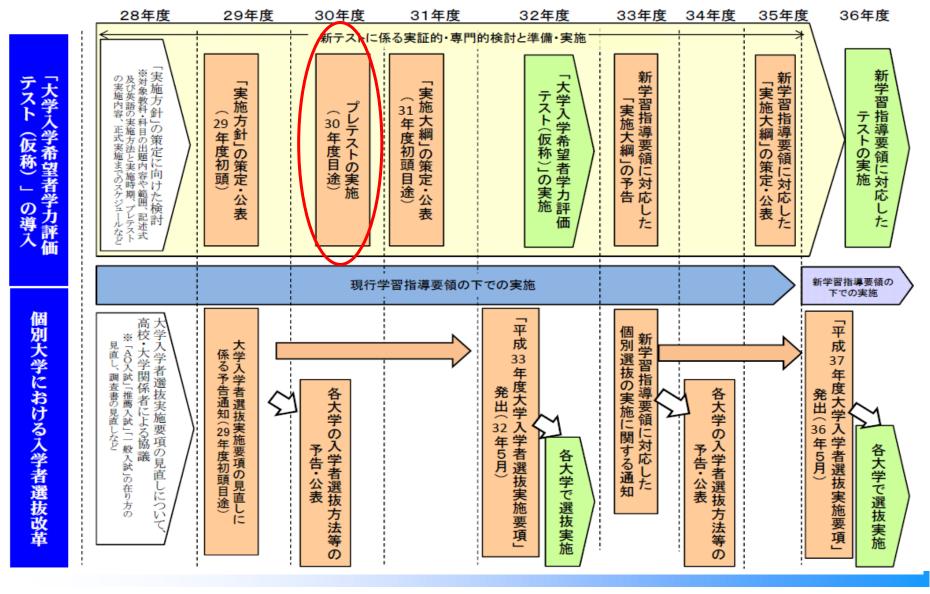
4月

改正省令施行

第3サイクル評価開始(平成30 年度~)

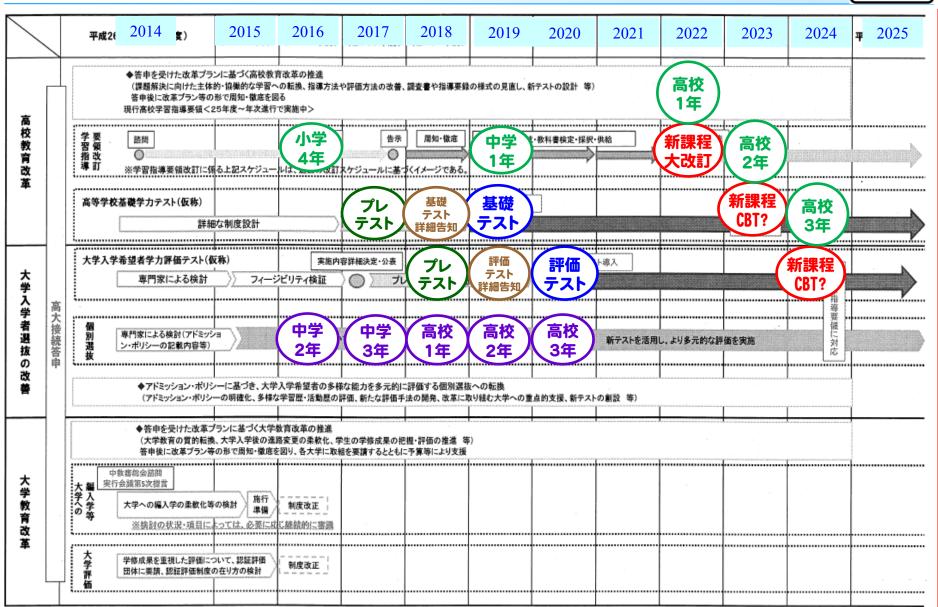
### 高大接続システム改革のスケジュール 3.大学入学者選抜改革





### 高校教育・大学教育・大学入学者選抜の改革スケジュール





### 高大接続システム改革における問題点



あくまでも私見ですが・・・

まだまだ越えるべきハードルがあると思われます

- ■経費(複数回実施、記述式の採点、CBTシステム開発)
- 労力(出題、総合問題、実施、採点、処理)
- ■技術(CBTシステム、コンピュータ採点)
- ■同意(段階評価や複数回実施についてのコンセンサス)
  - 各回のテスト間の成績調整、CBTやIRTへの理解
- ■負担(英語外部試験受験の受験料)
- ■格差問題
  - 公立高校と私立中高一貫校、都市部と地方、 経済的に余裕のある家庭と厳しい家庭
- 個別試験に手をかけるならば、門前払いの増加

だからといって、「どうせ、実現できない」「どうせ、先送り」と楽観 していることは絶対に危険!!

今後に発表になっていくであろう具体的な制度設計についての 正しい情報を手に入れることが一番大切

# 25 今回の改革による変化①

### **駿台** SUNDAI

### ■「大学」の大きな変革期

- ⇒大学の機能分化
  - グローバル人材育成型大学(G型大学)
  - 地域振興の人材育成する大学(L型大学)
  - 実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関 (職業大学)
- →出願要件として示す「評価テスト」の評価
  - 高すぎると志願者が集まらない
  - 低すぎると、社会的なステイタスが低下する
- ⇒大学の難易度は、1979年度の共通一次試験導入で大きく変化したが、40年ぶりの大変化が起きる?
  - 1979年度~・・・・旧二期校のダウン、私立大のアップ
  - 1987年度 ・・・共通一次前に2次出願、超「強気出願」 約10万人の門前払い、約1万人の追加合格

### 26 今回の改革による変化②



### ■受験生への影響

- ⇒大学進学の目的の明確化
  - 志望理由書、学修計画書の提出の増加を予想
  - エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション の増加への対策・・・「いい高校生活を実践させる」
  - 将来の目標をしっかりと本人が言える⇒難関大の個別試 験は、さらに記述式・論述式中心に
  - 国語力・表現力のアップ
  - 「OUTPUT」する力をつける
- ⇒「評価テスト」レベルの学力は早期にクリアしたい
  - 第1志望大学の出願要件のレベルをクリア
  - 英語4技能外部試験の活用が広がる